

(資料) 平成4年度における腸内病原微生物検出状況

微生物課 臨床検査係

平成4年度に実施した一般検便、勸奨検便、および防疫検便からの腸内病原微生物検出状況を表1に示した。

(1) 依頼検査(一般及び勸奨検便)

本年度は、サルモネラが、40,785件より30株と例年よりも多く検出されたが、法定伝染病菌である赤痢、チフス、パラチフスの検出はなかった。

表2に、当所分離菌および病院や検査センター等の施設より同定依頼されたサルモネラの血清型別を示した。

当所で分離されたサルモネラに関しては、病原微生物検出情報の統計で毎年上位をしめているS. Enteritidis, S. Thompson, S. Typhimurium等に集約されることなく、多種類の血清型が検出されたことが特徴であった。

(2) 行政検査(防疫検便)

真性赤痢の接触者中4名からShigella sonneiが検出され、チフス接触者中1名からチフス菌が検出された。

また、伝染病菌検出者の海外旅行同行者32名中3名より病原菌が検出され、その内訳はサルモネラ1名、EPEC1名、ETEC1名であった。

海外旅行者下痢症の自己申告者は6名いたが、下痢起因菌の検出はなかった。

(3) 菌株同定依頼

病院および検査センター等の施設より同定依頼は92件あり、内訳は大腸菌が69件、サルモネラが23件であった。大腸菌についてはOおよびH型別、ETEC、VTEC、EIEC等の依頼であり、サルモネラについてはOおよびH型別の依頼であった。

表2. サルモネラの血清型別

血清型	依頼検査	行政検査	同定依頼	計
O4				
d:1,2 S. Stanley			1	1
d:1,7 S. Schwarzengrund	2		1	3
i:1,2 S. Typhimurium	1		3	4
d:- 不明	3*		1	4
O7				
d:1,5 S. Isangi	5*		1	6
eh:en, z <sub>15</sub> S. Breanderup			1	1
K:1,5 S. Thompson	3		3	6
r:1,5 S. Infantis	3	1	1	5
y:en, z <sub>15</sub> S. Mikawasima			1	1
z <sub>23</sub> :- S. Tennessee	2*			2
O8				
d:1,5 S. Yovokome	1			1
eh:1,2 S. Bardo		1(1)		1(1)
gms:- S. Emek	1			1
K:1,5 S. Blockley	1			1
lv:1,2 S. Pakistan	1			1
O6,8				
lv:1,2 S. Litchfield			2	2
z <sub>13</sub> :en, X S. Hadar			1	1
O9				
d:- S. Typhi		1	1	2
gm:- S. Enteritidis	1	1	5	7
l, z <sub>13</sub> :1,7 S. Miyazaki			1	1
O3,10				
eh:lv S. Meleagridis	1			1
eh:1,6 S. Anatum	1			1
O1,3,19				
gst:- S. Senftenberg	1			1
O13				
gf:- S. Havana	2			2
O35				
z <sub>4</sub> , z <sub>23</sub> :- S. Alachua	1			1

( ) 海外旅行者再掲, \*は同一人より2回検出を含む

表1. 平成4年度の腸内病原微生物検出状況

区分	検査件数	陽性件数	赤痢	サルモネラ							ETEC	EPEC	
				04	07	08	09	03,10	01,3,19	013			035
総計	41,690	40(3)	4	6	14	5(1)	3	2	1	2	1	1(1)	1(1)
依頼	小計	40,785	30		6	13	4	1	2	1	2	1	
	一般	2,580	3		1	1			1				
	勸奨	38,205	27*		5*	12*	4	1	1	1	2	1	
行政	小計	905(42)	10(3)	4		1	1(1)	2				1(1)	1(1)
	コレラ	4(4)											
	チフス	310(1)	3			1		2					
	パラチフス												
	赤痢	551(31)	7(3)	4			1(1)					1(1)	1(1)
	海外旅行者 経過者	6(6) 34											

( ) 海外旅行者再掲, \*は同一人より2回検出を含む